比翼連理(ひよくれんり)花廻(はなの)志満臺(しまだい)初編(しよへん)巻之中

江戸　松亭金水編次

第三回　寡(やもめ)の姦計(かんけい)

ちかごろまで武蔵の國なる豊嶋郡。境町へも程遠からぬ處。さすがに繁花の地ならねども。[illegible]へしその中なる八郎席料理の店もあり。鄙し物真似狼猴の。寄場もありて繁昌さへ。途絶ぬ御代のおかげさま。琴三味線の稽古所も。あまたありける其中に。和之一といふ盲法師。

今流行の山田が流義。琴の指南と表札かけ。娘のお吉は寡婦なるく。その活業は女髪結。いづれ姉妹ふたりのくらしな。その月給送るものありけり。或日の夕ぐれ一総領稽古に出ていまだかへらず。お吉は火鉢の側に居たり。ひとり孤燈にさしむかひ。物さびしげなる面持なるく。對居る所へ。裡口の障子引あけ入来るは。誰ぞと見れば天間町に。その名もたかき紙屋の手代小六を覚尓ゑゝ小へキイお吉さん宅なるか。チトお機げん人がなるく、寒さよ

吉「ヲヤ〳〵 まアおめづらしい 小六（ころく）さん 何（なん）とおもつて お出（いで）なさる

まつくへ 小「何（なん）ぞ 考遣れんが チト 面倒（めんだう）頼くらけさ 吉「

ア きつぷちへ おめがんなさいます。何（なん）ぞ お連（つれ）でも あるのへ

小「アイ ころさ 一人（ひとり）つま〻ありやせん 吉「ムヽ 志逢ましさ。これ

うろ どうぞへく 往（ゆき）と おつよめるのつ子。さぞぞ 私（わたし）も お彼（かゝ）

いろしこひが。光る（ゆく） 女は 郷く お稼（どうせ）ドにあそびでらう 小「あそぶく

そういふ 狸爺（つまへ）ドやア 頼へヨ。お吉（きち）さん およしと 身（み）分かし

てくれるト きこげば 嬉しく（うるなづゝうゝ） 吉「アヽ よろびぞいまんとも。ちやうど

今夜ハ客も稽古よ出く寝ませんから。二階ハよりく
所へひとくかまいますヨ。女よお話がんるさい。モシおちくゐな
ぶらでござりますよねト 小六がすゝむるを（せんとく） 小「どうぞマア遠慮なし
にしらくおくま。やと跡でなんぞ奢りませうトいひつゝ表へ
つまどござらし。おまゑをまちきて手紙をよみて。物音もいそぎ二
階へあがる。跡よりお杢ぶらちやうちんをつけ。元手にもち
たんと分紙さげ 吉「コアゆつくりとお休みなさへ。サヤおまへ
さんよくト （おまるよあるい さらまれべ） 女「モウごめんなさいましトいひつゝ

まくぶ顔(かほ)をむける。お客(きやく)さまがそまどまや みまで粋(せい)と

さみしく下(した)へおり。程(ほど)よろけし三味線(さみせん)よろしく ひき出(ざ)し水(みづ)

でうし。言(いふ)あさも二上り潮来(いたこ)。二階(にかい)の二人(ふたり)が腸(はらわた)。流ろ

ぬくむかうの跳文句(おどりもんく)。と小ごゑでそゞろと紬縫(つむぎ)の。その音(ね)ど

めさえゆらしけまし。二階(にかい)の二人(ふたり)を今(いま)さらふて手(て)めちぶさだ

みさしむすび。まぶし絢(とまど)もおくざうしが。小六(ころく)をおまえが側(そば)へ

まつより小へさそく おめくれ笑(きけ)ばきくれど叔母(あれ)まみ身(そ)のうへ

まつとよ親孝行(おやかう〳〵)のこゝろざし。今(いま)どきの娘(むすめこ)小ざもすへめづ

らしい心(こゝろ)いき。そのこゝろざしの程(ほど)紙きりくわ。ぶらりあり
楽(らく)ま あそびあるきして ゐるまゝ人が。何(なに)をいふても おれも
当時(とうじ)天間町(てんまちやう)の紙屋(かみや)人来云(きうう)の身分(みぶん)。あかく江戸(えど)の多事は
貢(みつぎ)もあるねく。むかしかめ人方(がた)親子(おやこ)二人(ふたり)で。ぞうり参(たう)
らく くらく後(ぶるね)のこしへ。お多(たう)を指(さ)て見(み)ありぞ。その宅(うち)の
お吉(きち)さんといふは。女の髪結(かみゆひ)さんで。さびく要(ちく)も来(く)る
うろは心(こゝろ)やさしくそまでまさる途中(とちう)でそよしも出来(でき)ねく
う。パナつれて来(き)てのぞぶ。是(これ)から用(よう)があるからさらく

お吉さんをたのしみませんへ。堕はおれが死んで居るからヨ　へイスー

ありがてへ。忠二どうし〳〵縁ヶ時節をとめてお目にかゝる

親兄弟よく〳〵もあるまい。御親せつなる御願まゐらせうとての嬉しう

ござりまする。先刻もおはなし申すとほり。後室をおくるい

親子が身のうへ。嫁とおまへさんすてなく。おめとうけて

ぢさいまし。ト　このむ祖も嘆きやさんし。いで　たゞ〳〵しきがさき

うち。然でおめみ申すも。口でいひまねおやと義理の負する

なり　照らしてみ嘘のいぶち。恋の袖ならけも行としても。よしや世の中

あつくみ。銅壺（どうぶく）くまるだかりなり。小六（ころく）まゝ見ゝ穀（こ）迄（まひ）及

つけらくおまち（まる）まつり小へ裾（すそ）まりあよも縁（えん）と母ぐ。次（まへ）く新（ろう）

してさへむすひ。喜（えんご）のかなしとまをしといへ。よつぽど深（ふか）い

縁（えん）ぐらりゝかゝおめ人の方（かう）せん家（え）ねんけまや。こゝちで

こんすてる気（き）ぐらひなりぶ。何（なま）銭（ぜ）かくも私（こまし）が身分（みぶん）去年公人

といふものぢやうぞ。銭金（ぜにかね）も自由（じゆう）にならぬぞ。これが第（だい）

一（いち）ちまるの廿（ぞる）へ十二おかみ（えい）さんが悋（よく）さへなけりやだ。どうろう（ない）新らいゝ

まんざら。そこはつよいがよいぞ ト いひつけ口（くぜ）過る銭小六（ころく）を相（ねぶ）

まそり呼あるく　ゆ「ゑでござへしき　ま「イエ十二　小「十二じやアごぜへす梅へでどうしヨ　なる「ナアニ　小「とまきでどうもといへのわサ　まつ「でおまへさんハ男（をとこ）が好だろう。外の事も惚（ほれ）人がさんとありませうかう。気（き）がめのめすまいといふのさト　器量（きりやう）でいふ　小「是（これ）サいゝかげんにしなヨ。それが不二才（ぶさい）でもそんなにおもひやらんなあのじやア能く。それのおまへがちうる者に惚（ほれ）る奴があるものかエおまへさん。あとりが行状といふごだよト　戯言と小上へを負をむけ。勤懸とみつくる風俗は。おいらハツト負顔

らぬ「ヨヤ小六さんおかしい猿へ。私（わたくし）が十二おまへさんも。あぶいまだねんねの身で。それでもひよつとお気（き）に召（めと）たら。どうぞ遠慮（ゑんりよ）しておくんなさいヨトいへども小六は挨拶（あいさつ）せず。羞恥（はづかし）よそむく烟草（たばこ）くゆらせ居（か）る男へ。おまへさんは（なる）気（き）の毒（どく）そうな身（み）さしのぞけば烟草盆（たばこぼん）をこなたへおしやり身（そ）をそむける。おまへさんはまたもつけまいり。それでもまたこのや身（そ）をそむける。も手管（てくだ）しらぬ娘（むすめ）のこゝろ。いとゞ気（き）をもめどかひなくて。云觧（いひとか）んとおもへども。まだ馴染（なじみ）のなき男の心汲かねて

ゐぷと息(いき)。やそこらのむしがおどろかせも。まのおとに湯(ゆど)の一ト吹ぐらゐ小六(ころく)ハフツと吹出(ふきだ)しく 小「コレさく串銭(ぶたうぶん)ごアる。十二十三を云(いふ)あのうトいひまして安堵(あんど)し完尓(につこり)しく 嘉「娘めハそうかとおりとけましたど。何時(なん)まで由ちのよい皃(かほ)しく。私(わちき)ハもう真実(ほんとう)まあまアさうしろと。これ御覧(ごらん)なさい。胸(むな)が悸(どき)〳〵しますんいトもじもじくおちつき小六が手紙をちそへて。鳩尾(みぞおち)へあてぐ〴〵小六ハ其処(そこ)を押してをり 小「アヽヽヽ気(き)の毒(どく)だけのうそれじやが おめへ真実(ほんとう)によおまへを何(なん)とう思ツて居(ゐ)るの

え　なる〽主（ぬし）嘘（うそ）ばかしゐまんのう子　小〽だまはとこをさきやア
きろ話へぜ　なる〽アイそうならうおまへさんの存分（ぞんぶん）になさいまし
小〽なさい。ありまへんそんなゑらべ。互（たがい）にかはらぬ約束（やくそく）紙。其何（なん）ぶる
いろ〳〵また剥（はけ）て居（ゐ）るのを　なる〽アレサまアおまちなさいヨー
こゝより二階（にかい）はなるゝもたえなく。下（しも）にはお若が三絃（さみせん）の
音（ね）のこゑかをとうよ聞（きこ）えけり。打（す）つ〳〵拍子木（ひやうしぎ）の音、あれ夜廻（よまはり）
うつ二更（にかう）のかねせよ。小六おまへはそろ〳〵に。いとま乞（ごひ）しく〳〵
立出（たちで）て。名残（なごり）もつきぬの相惚（あひぼれ）に。つがひながらも別（わか）れゆへ

かくてそのまゝ打絶てそ。その二階にしのび寝の夢
まよひし心の誠。おもひもよらで絶えしかど。おもひ月日を経る
ほどに。小六は内外にこゝろをつけて。来るたびごとにさち
ゆゑ。歌は一番あるひは二番。既に代りたるにも。やさしき
あさちは討ちらさしも。得つくものゝ生れつき。欲心深き言もあれば。
あまた能ありといへどもかのひとつ。この癖に耳をかたむけて。
今まうけのおもしろさ。心のうちにさわぐと。取も打かへる程
ぐちながらも宝とあけて「お幸さん内にお出でかといひつゝ来たる

をふり向(むい)く 吉「ヲヤ お上(かみ)さんよく お出(で)だネ。此頃(このごろ)はずいしるさうらう久(ひさ)しくお出(で)であそばす かみ「アイ 此(この)のぢうお爺(ぢい)さんがチツト不出(ふで)来(き)で 吉「そうかへ困(こま)つたものだのウ。けふはいかゞ かみ「ア今朝(けさ)は大きぶんがようございますヨ。それで余(あん)まりひさしく御無沙汰(ごぶさた)をして。小六(ころく)さんもずいきなまへとうとおれく。ちよつと粋(すい)のましく。アノとぼけた子。おりるなあぶ嵩(ちろと)むろり 吉「ヨヤ是(これ)はありがたう十二おりるなさまざまいらふ。吉「ヤアいつ臭(くさ)ぶ子。ここ一や〳〵擂(する)粉なよりあの子は善悪(ぜんど)の者が好(すき)だヨ。様子(さとと)はおかしいそうでど〳〵遊(あそ)びなかいくで

うよ。吉〽小つさんハ帰（かへ）んなさる子もござりませんか。吉〽イヤ御丈（ごぢやう）夫（ぶ）サ。何（なん）ぐろこのごろハ又せがいそがしいそうで。アノ方も久（ひさ）しくお出（いで）でなへハヨ。是（それ）ハそうとお樽（たる）さん。聞（きけ）バおまへもお爺（とゝ）さんが久（ひさ）しいハ病気（びやうき）で困（こま）んなさるといふ事。勿論（もちろん）小つさんもちつとげゞハ貢（みつい）であげなさるでござらうが。そう云（いふ）ちやア可愛（かあい）けれど、おまへの操致（きやうあう）で。今（いま）おめて向（むき）で旦那（だんな）をさせてござらん月（つき）一（いち）度二歩（ぶ）のハ。ウヌ出（だ）せと云（いつ）ても出ませハ。其（その）うへで着（き）ものや帯（おび）でも拵（こし）らへてもらうらう。そく為（ため）になることちやア孫ハ。アノ

小六（ころく）さんも深切（しんせつ）で。ぜんたい人（ひと）づけまでも。何（なに）といふても
主人（しゆじん）のためで。○兄弟（きやうだい）がぎやうにゐるねへおんぞういけ様。お
めへこさハ小六さんをよして。外（ほか）より旦那（だんな）をおもち。こちらが世（せ）
話（わ）をしてあげやう　ハイ　おぼしめしハありがたうござりますが
どうも旦那（だんな）ることぞとやらで　世の義人といはるさるの。ゆく
ゆく年がいつ経（へ）ても。ぞる康律（りちぎ）なことと思（おも）ひませぬ
小六さんの世話（せわ）よあるも。外（ほか）の旦那をとるもおそろしい。又
おやこあつくたゞ一筋（すぢ）もおぼえがあるが。始（はじめ）ての人ハさぞ

男女やかやがよくいそ。外に私とおのしよ気ハ出ないやうなものぐさが
士人と今の世の中ハ。みえる金づく言ずね。かまへるやうになへ言根
御ヲ一へそとで由 吉「それならアノ外に見物をあるとハ止めくサ
こぞうく 小ふさんよそう言へく。些箇さえあれど金銀のひるあるがいく
おまへ言ふ小くいゑてーがそう言てあげやう。二朱や三朱のえー
ゝ金銀。なぜわしのつき性ぐく。もしつる麼く表いハね 吉「ぜうて私の
やうな不束ものゝ。小ふさんなれバこそ。私して自然うけく
まへの銭。不思ぎらーく そんなつもりがおきさま夜いそう。さへぞ言根

なんのへ。おまへがたゞ御ぐ心おきなされまし。ひよつと麁相(そさう)つかまつり
まし。私(わたくし)ハ否(いや)でござりますもの吉「アノサ此子(こ)ハ。本ニ賢(かしこ)ござるのう
麁相つかまつつたら。ちよつと僥倖(さいはい)ぐらうドやア なりやァはる「
イヽエ〱其迄でも。それでハ義理(ぎり)がすみませんもの吉「なんの義理
の情(なさけ)のといふものハ今(いま)と昔ハ大きにちがふものさヨ。そんなまゝ事(ごと)を云(いふ)て
居(ゐ)るより。親元(おやのもと)へ泣くが今(いま)のうき世(よ)。アヽ〱こゝつよ侭(まゝ)せぬ〱お
きさな。恐(こは)イ世のなかハ志なゐもの はる「みさな何(なに)ごとも私(わたし)が身(み)を思(おぼ)し
めして。彼是(かれこれ)とおつしやつてくださりますゆへ。ありがたうござります

もうネ。此子（このこ）がなかりやアおまへさん。どうぞ私（わたくし）のやうなものをおまへの心（こゝろ）にまかせッてくださいまし　吉「アヽ今夜（こんや）も当人（たうにん）が不実（ふじつ）をしまするのをどういたさう。たんと人（ひと）に戯場（あそび）まで見せるがいゝのサへ　そうおもへ若旦那（わかだんな）何処（どこ）やらに角（かど）が立（たち）まする　吉「ヲホヽヽ縮（ちゞ）のサア。そうおもやアおまへ人の所（ところ）もちもしでいゝといふの。何（なん）ぞまへ用（よう）どうでもあるならそういふてあげまう　吉「アヽ何（なに）も夢（ゆめ）の間（ま）もござんせん。其間（ま）のいゝところがござりますへ。宜（よろ）しくおたのみ申ますやきもきほうトそれとその座（ざ）の者（もの）のにして。暇乞（いとまごひ）してかへる

引ちがへて来たの和之一「帰さん今かへりましたと「ヲヤ早かつた
のサお湯へは「ハイお帰りまで給ましと「それハよふござりましたと
ちやう「宗さんのぜんかたで。聞申奥ありません「左様サどう
で聞へありまするハ姿ござります。それはまちがへかねましハ盆
家の間とへいりよのゝお師匠さんの。おらげだ今ハぞうろ彩ろ
と琴の師匠で通つて居く。三味線よおのひるきさんだ。そだの
うくハぞうろしきく。だんだく紙世紙さ世で入めの十それハまうし申
ねがけて。いろくとませけまど。まど時分が来ねと見へません

そりやそうと婿(むこ)さん。今(いま)の抱(かゝへ)げ色(いろ)まねすまして。お前(まへ)へハアノ
国(くに)ゐあの世話(せわ)でもあるさる母(はゝ)う先(さき)。モウあんまるのハ腹(はら)して
およう(?)さ其人(そのひと)。と急(とく)うく紙(かみ)に直(これ)満(み)ちぐへの如(ごと)くでござるもの。その
さ死(し)ぬやア。お前(まへ)さんハお(そまる)ことしやア此(この)とよりて目(め)が不自由(ふじゆう)でござく
どうも仕(し)ごとハあまりなりません。一寸(ちよつ)と十(と)ヲく燈(とう)もあんどんさへ見(み)ゑるヨ。みゑる
まア子が娘(むすめ)のやうなもの。今(いま)までとても来(き)て居(ゐ)ぬこの六。合役(?)娘(?)と
世(よ)の中(なか)の浪人(らうにん)あの女郎(?)ア。紙屋(かみや)の小春(こはる)さんと心中(しんぢう)して名(?)く
二階(かい)も住(す)んでゐり。世話(せわ)をしてゐる見(み)るぶ。此(こ)の川(かわ)で人(ひと)呉(く)れれバ

いと勧(すゝ)める由。乃兜(とと)の姿であ一ツハ此嶋の猿手由ある

櫂屋(まくら)がわるうくヨ　「気(き)づかひの魚ハ緩(まけ)くちなる。そりやア

随分(ずいぶん)うらけれども　若衆どもさんなヨ。ヨシてござそおかまひな

るのハ売る色みへ。其子(それ)ハ達者くてあんな。とうやアたへずらく

よりやア。お手人の陰ろうしよ家がいうたら。○ヨめ邪くちようと耳(みみ)を

かへるト　○上の一がみや床かくこかや　窓をよせ　壁紙屋の口え合ひ　繕て。小六さんを呼(よ)ば

しく。新くあし錆(ず)ぐにうとな。乃人(ひと)由弱ふうが大筆十両や

そこらハ大丈夫(だいじやうぶ)。そうしてふるへるべ乃お見(みまへ)さんござる由めづけて

世川く路の此字がせしめくせうさ。何（なん）とぞうぐご呑込（のみこん）之「訳ハいちく呑込（のみこみ）まし。何（なん）ぞこりや承（うけたまは）り秘（ひ）やそれなるすハ出来（でき）まい　者「そこの通（し）なるぜ出来（でき）かくいるは。綏（きやう）うるさいところう何（なん）でもして。たやく尊人も大名（だいみやう）の学者（こうしやう）までもあるがいくサ。いはゞいはまでわりくと。非学者（まひとうまがん）支分もちまがねへ。手前覚（のみこみ）おめへの身のこの紙。おめへハこそ被見（これ）と。かひ（そう）須（いさ）めるものみのの。そまとも承（うけ）りよしるせへ。その恐（これ）りまやう是（これ）うろう以後（いご）。どんなるすがあらうとも。ちりかまハねへヨよりく

コレ一も望(わざ)うく。お飯(まんま)も替(かへ)ハ一杯(はい)く。た一人(ひと)銭で添(そへ)く一んト
くわうど嫁(よめ)のが心(ころ)。くそかましく一部(よめあり)一へ。おまへが神(きめ)を志(こゝろ)うと
おさへ「（よめ）毛 嫁(よめ)さんおやまりまするぞ。ぢやコレが悪(わる)かつた
おまへハ折角(せつかく)コレが身(み)を。どふくらや引(く)いて下(くだ)さる。それを
コレが心(ころ)すむで。いふて悪(わる)いハコレあやまつ。どふぞ氣(き)を楽(らく)して下され
こらへてくれ。ヤイコレがある無理(むれ)。泣くことを見(み)ておまへハうち(きち)笑(わら)ふを「舅(きうと)の
ア御亭(ごていさん)らーハ。それなよ人(ひと)とよのをサア折角(せつかく)コレ一が思ふ
と。るす。おまへハ部(ぶん)でそうへおるぞ。それで泣(な)いて腹(はら)が立(た)つ。ちふど

りよのも兄弟の心をもぞそく和睦一がまりにきまりよきかみなきんな。そんなら是ハーが今りよくさるげ。あすへ篤くり合点して。此方ハ紙屋の小六さんへ兄弟とうなる間の「アイくかけ合までのぶんか。首尾よくかけハ是一も仕合へ「そう義理和もありや何のうけいきい。早くそれなら何も此方のこと思いのふきやく療養と。二人の家をあへのぐく。その夜の暁

猶次回待るべし

第四回

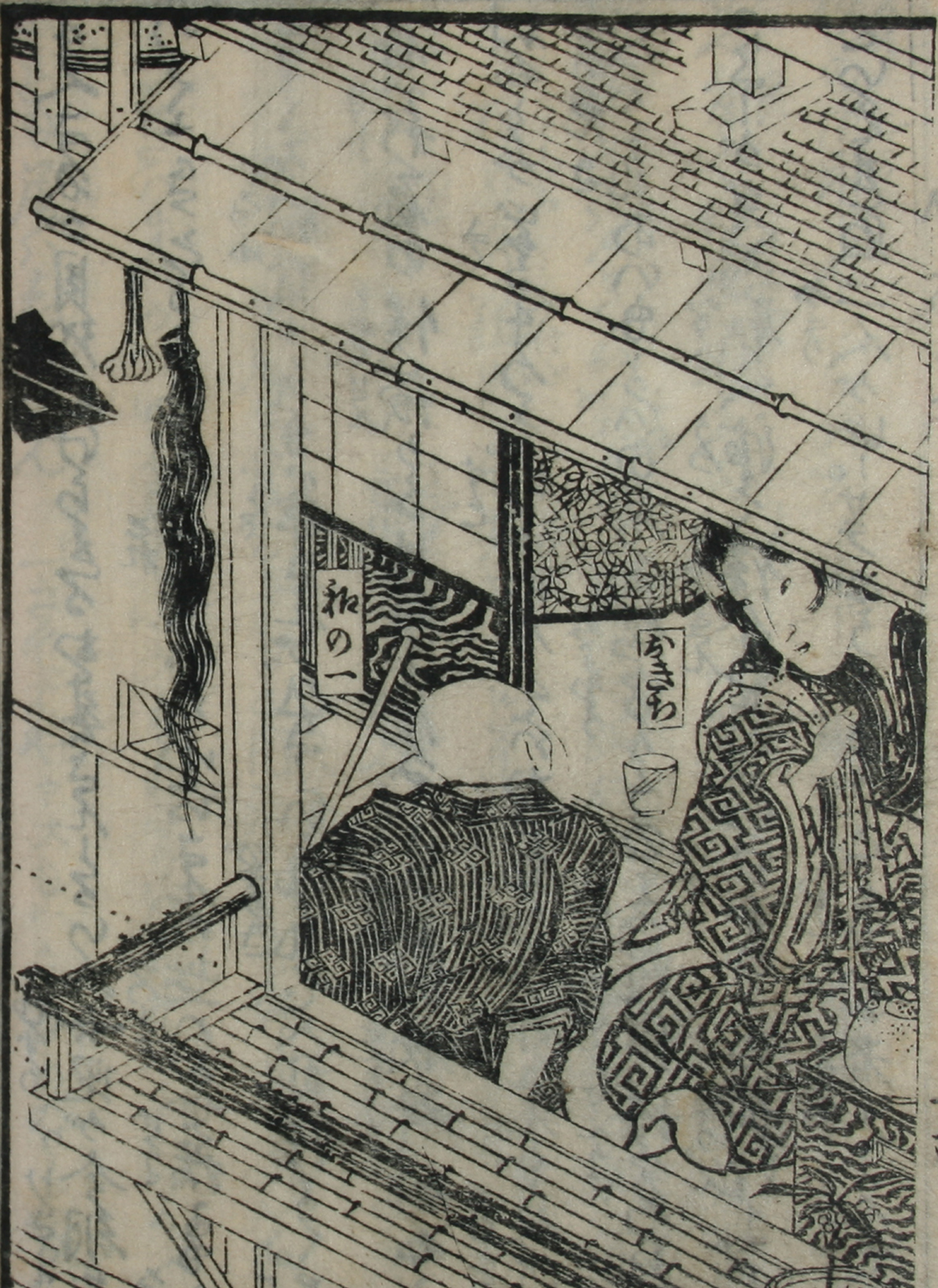
壮男の懺悔

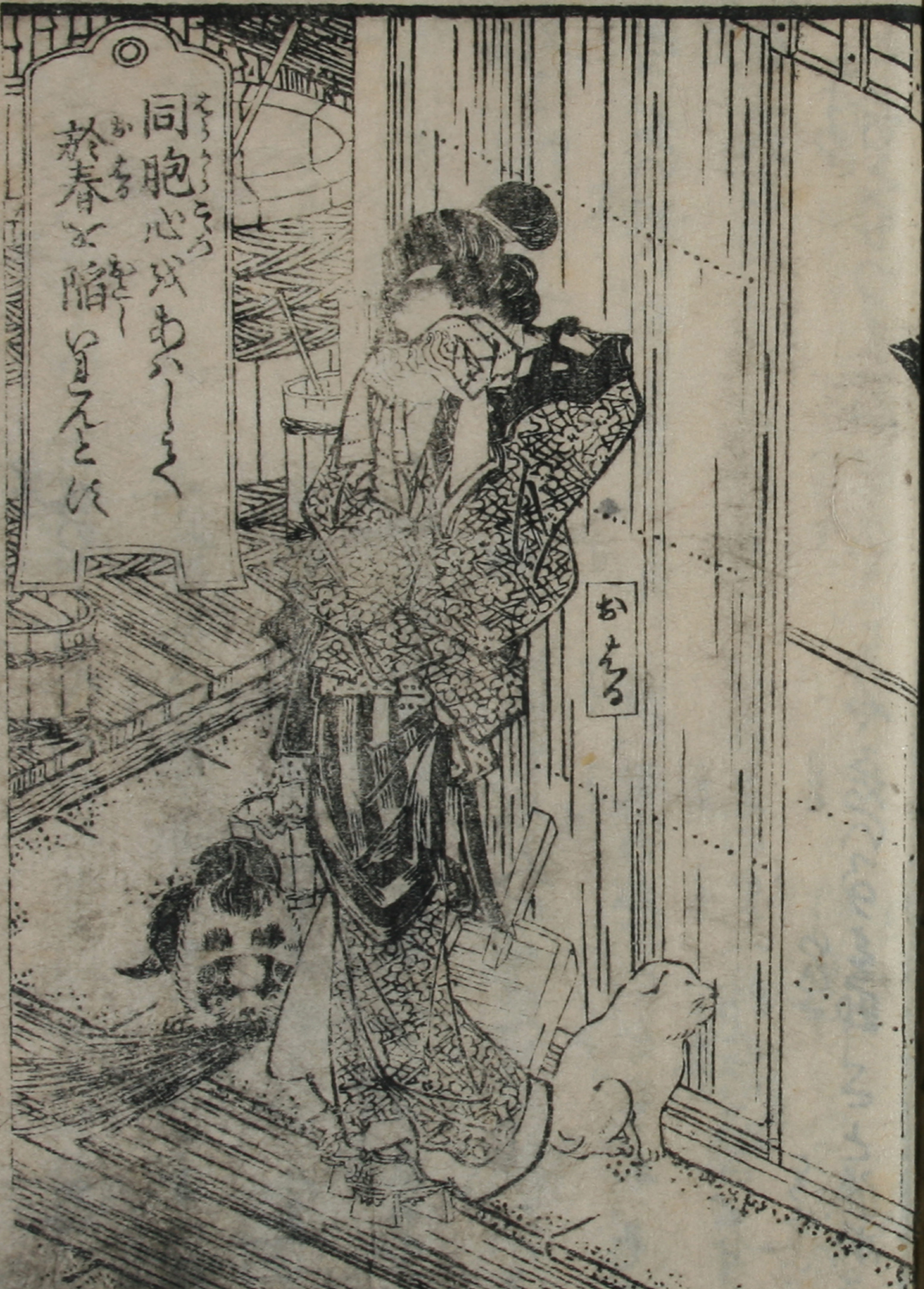
あふ小六(ころく)を討(うち)たばや。お主(しゆう)と契(ちぎ)りを結(むす)びしより。つゆすれうぇ
なる情(なさけ)のたおやぐ見(み)遣(き)をうかびて〻。お主(きみ)が二階(かい)は中(ゆうの)宿(やど)とした
のこゝろかけてあふ事の。そのむつ言(ごと)の浅(あさ)からでハ。山(やま)ともあへん
かの思(おも)ひ。めぐるや年(ねん)季(き)も今年(ことし)が限(かぎ)り。来(らい)ハ年(ねん)あけ世帯(しよたい)
もち。お主(しゆう)様(さま)を喜(よろこ)ばさぬく。離(むき)るゝ間(ま)もなく側(そば)に居(ゐ)て。くらさん
さぞそな嬉(うれ)しからうと思(おも)ふも恋(こひ)のくせなるぞ。たのむ晦日(つごもり)の支度(した)
て。今(いま)は師走(しはす)の納(えど)めくゝり。此(この)ほど見(み)世(せ)のいそがしさに。久(ひさ)しく
あはねばまゝならしき。今宵(こよひ)の見(み)世(せ)張(はり)切(きり)ねばゝ。あわよく連(れんや)をせせん

あのとたの娘衆八千娘。衆といふ字ハ見たてゝお
まなむすめで[illegible]き。[illegible][illegible]の此
方ハ[illegible]人。そ[illegible]てこなるより小六さまがぎつくり[illegible]の
私ハ一[illegible]。[illegible]へちよつとお[illegible]めよ。たのまれてお[illegible]さとあそ
あゝ。ハテ気ぜはしく[illegible]よいかと[illegible]にも[illegible]
私ハ一ツよし紙がめ「チトお話がひかへません。アノ小六さまがお
[illegible]。ちよつとお目にかゝりませうトいひ捨て小兵衛
かけ出し小「アイ〳〵私も一さんよくお話ゝ[illegible]に逢たいとう

縁の障子じやアどうぞ/\しく用紙きて間もなくてあいへ見え
せへつく裡口へちよつと廻つておくんなせへナ　ゆう「ゆくさまゑうちめう
もうしへまゐつておめへにいつてゆくトいつて露地の傍へゆく。小六は通る
あく。裡口より顔出して。井戸の所へ和尚一疋よせて　小「ハテ
おかね婦さんうちの女房へトいふよ和尚一小首かたふけ
まの「ご亭主人を居ませんかねへ。ちと内證のおそゝぶかしても
よふござりますかトいつまで小六はわたくしの所へ　小「ほのく
ご亭主は居ませんかねへ　まの「さてえ家ヤスもおうちあめの上やが。お

まへさまが見知らまするおまへさんところの女児（むすめ）が。今細糸（りさ）つくもきうとるまへさて是（これ）までハ小六さんの。些（ちっと）ハお世話（せわ）も叙（あり）ましろが。何（るふ）紙かーえ母父爺（とと）さんが。ひまの病気（びやうき）で入用（こあ）よう是屋敷（また）屋の傷（ゑやくせん）織らう。日ゑし居る衣数（いろい）の換料（ゑいりやう）。何ゆらかゆゑが嘗（て）まつく。かーの（すと）今でハかね貧（づつ）ぞハ。爺（とて）さんも此頃（このごろ）ハ大分（ごいぶん）気（き）もへもよへもゑよ。弱（きよわう）宮らうの気（そそぎのそく）保健（せんりさ）論宮つゑてつよしが身を。郷（くるわ）へ沽（うろ）ハ借金（しやくきん）をかたづけまうとの相談（さうだん）よ。アイとひそまとね二人（ゆう）が出し。サテぎうしようと思（おも）くみ。老（ゑんがく）くつても


おきぬ
ねの一


同胞（きやうだい）心ばへあしく
於春（おはる）を陥（おとし）いれんとす
おはる

情なや。大恩うけし親のこと。ぢやと申すものハみじめな義理合それまでハとても身を売てハ。思ひかへしてみるが夜具よりも。蒔絵かゝる人のうへハ。悔しくいやらしうかよふかと。主人さんとア兒の中紙。約くどやと呼し面が。親父どのが大そう立あるその外ハ情あり。女児もふくへがさえの男め。人の女児を慰あつくふッくい奴の。おのれも以前ハ。鑓一筋のぬしの果ぞ。こりや その分ならハさまさまね。おんなハしら先の宅へ。心もとでかくを付ると。容あるくもつまらぬ男ひよ。こりや思へるはまいぞと後悔先

まださる時宜。そうでア見かねりろくと得とけりなく親方
どうの状。ぞうく家内であいさいご。どうで此方では激ねつけ
ものゝ身が大きくなるまで。コレすこしと小六さんばかりでなく。お前へ方
兄貴の。めのまへで御母かるい必定どのやうな何事をみなさる合点く
今十四五友もあつてゐるから。浪風なく便よき。其でも此方
を治りでまでも。何とお主人小六さんみ。くらしく嫌しく今様で
くださんせねへと。お長さんが。たのミ小娘もきづかひくしてござく
それへどの座中。コレ一が嘆し。来ておんなが。縫初るから十四

あの義。時分がらといひ出来たべよいがと。わしもイヤハヤ当惑しく
手も汗をにぎりましておかみさんが。イヤわしさんおまちさん。おまへが偏に
この手紙をうけて手がでかねると云ゝ。是がお見せ入まして
小六さんに咄しませう。夫でも縁がつよくむすぼれ。そのうへ
爺さんの。御了簡もござりますまいと。おちつきはらつてアノ児のに
彼。ハテサテ困つてゐるでござりました。親のみる女はおかみ合点されさ
ばかりでお気のどく。そこでわしもおがりろふ。其上一ツよいおまへさん
と。何かおちつく中ゝ。外の気のまへ目出るハ聞へてへハもも男同士

それハ大事（だいじ）あるまへうろ。貴様（きさま）も絵おまへさんに。お咄（はなし）
よく御挨拶（ごあいさつ）。きつく負（まけ）ぬと娘（むすめ）のいひつけ。らちくく気（き）まりのよく
ござりませぬト申（まう）して惜（がく）小六（ころく）が生得（とむら）うぞでくん武骨（へんとう）組（ぐ）み者（もの）でござる
わたくし一人の子（こ）ござりますの（あかれこゑ）その（こゑ）「イヤモ世（よ）の中（なか）ハ中（ちゆう）ぜんなりませんわへ
さりながら先祖（せんぞ）ハ公家（くげ）高家（かうけ）。アゝそ。去る流る武士（ぶし）の流（なが）れでも。人廉（ひとかど）
て好（この）もしう存じます。中（なか）〳〵この御自分（どこぶん）が御見立（?）なさるとおもちやると
付（つけ）まんざらのこと和（わう）らぬ望（のぞ）ミません。イヤ〳〵めつたも無心（むしん）せん〳〵
それなら縁（えん）と申ませうるト生まれて小六（ころく）も十壽（とゑう）ふくめまする。

一ツ家ハ老婆が住居。あゝくるしき[illegible]の[illegible]。[illegible]

まのあたり見るが人の命ハ討ち果すぞ。ハテ恐ろしき事ぢやおいて

猫子恩愛もおきてわする。私も一ハ世なれて「おく どうぞ

思ひはさるべ。あまり昔ハ[illegible]く[illegible]手間どるおちゃ

親子として。父弟又今まてハ盗人が。親も[illegible]人[illegible]のでもない

そうとく[illegible]我が母は身が見えさへ。イヤ[illegible]とも

ありきのどく。せひもござりませんと小判ヽ銭の[illegible]ど

くれよ 我も一念ハ。今ハ鬼神の恩愛よおよばぬ[illegible]

かも大事の身のうへ。揚屋まてくハ身の破滅とやらものの
うち請入つまく。手一匝のうち也揃さぐり。たくらえあそこ一み袋
二分の。金也ゆゑぎろで請出し。和え一ヶ耳よに小へ御也のふ
ゆゑ出大息のうちで。多えよさえどハありあれぞ。言ふとも
いそく。おまど。差まさつ人負人あり也れてハ。金まうぎつとも
すねりとけ田衣。今あり合せの五合二分。あまへ一のうとこし也る
おどるよ。まざくとう也一日二日ござろ伴しまくおそやせへ。ほまる
その内よりハ都合しまく。いづまと家内てくおき音さえとめくハしく

お機嫌(きげん)いつませサ。サアく、ひよんな所(ところ)でへ。おまへ方(がた)へも苦労(くろう)かけ

御ろく此方(こなた)がお気(き)の毒(どく)ご新造(しんぞ)さんへも此上(このうへ)。幾久(いく)しく持んだお身(み)を

其トはうそ其ハ和之一精(?)へ倫(りん)と申ものでありませんがこく是(これ)ハ

私(わたし)が。ちつと小お教(をしへ)申ます。此御(ご)法(ほう)をまもれば夫婦(ふうふ)ハ二目の子宝(こだから)ととお

我(われ)らま。やゝく婦人さへもさへござるぞ。さぞ御苦労(ごくろう)でござりませう

トいふを聞さへそとして。和之一とかへりがく。夫婦(めうと)もすへく嬉しき延

目出度(めでた)く不(ふ)老(らう)長(?)ハ嬉し孫(まご)も。繁昌(はんじやう)世(よ)の中(なか)を。身(み)に志(こゝろ)ざしくと

悟(さと)みけり

花の志満臺巻之二終